

藤波啓容、堀井宏悦、堀善之、松本富雄、水村孝行、柳井章宏、和田晋治、埼玉県市町村支援部生涯学習文化財課、ふじみ野市立大井郷土資料館、(株)東京航業研究所、(株)ふじみ野リゾート、(株)堀井不動産、(有)文化財 COM、(有)アルケリサーチ

7. 発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。(敬称略)

〈発掘調査参加者〉新井和枝、飯塚泰子、井川弘、壹岐ヒサ子、井上晴江、井上麻美子、宇佐美弘澄、臼井孝、内田潔、遠藤忠志、大久保明子、大曾根キク子、長田弘毅、小田静夫、小野沢保孝、金子君子、菊口繁子、小林こずい、西城満期子、佐久間ひろ子、篠崎忠三、鈴木勝弘、関田成美、高貝しづ子、滝沢久嘉、戸澤竹二、富寺佐代子、中村正、沼澤岩男、野岡由紀子、比嘉洋子、福田美枝子、増沢勝実、宮崎達夫、吉田寛、若林紀美代。

〈整理作業参加者〉青山奈保美、石垣ゆき子、伊藤綾那、大久保明子、片岡滉貴、小林登喜江、坂井明、鳥貫雅子、須藤さち子、鈴木千恵子、高橋けい子、丹治つや子、寺井美和子、中田藤子、山口妙子、松島淳子。

凡 例

1. 本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

(1) 縮尺は原則として次のとおりである。

遺構配置図 1:300 遺構平面図・遺物出土状況図 1:60、1:30 炉などの詳細図 1:30

土器実測図・土器拓影図 1:4 石器実測図 1:3、2:3 錢貨 1:1

(2) 遺構断面図の水糸高は海拔高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海拔高に同じ。

(3) 遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示。

攪乱  地山(ローム)  焼土 
土器 ● 石器★ 黒曜石・チャート 礫○

(4) 土器断面図は、「」が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表わしている。

(5) 縄文土器実測図における screen-tone の指示。

地文縄文  撚糸文 

(6) 土器・陶磁器実測図の中心線が破線の場合は、180度回転させて復元実測したことを示す。

2. 住居跡名は、遺跡内の通し番号である。整理作業時に遺構名称を変更したものについては、新旧の名称を表等に記している。

3. 本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会生涯学習課に保管してある。

第2表 2005（平成17）年度旧大井町地域内埋蔵文化財調査一覧表

No.	遺跡・地点名	申請地住所	調査面積 (km ²)	開発面積 (km ²)	原因	試掘調査期間	調査措置
						(本調査期間)	
1	鶴ヶ岡外遺跡第3地点	亀久保1676-27	25	160	鉄塔建設	2005.10.25~26	試掘調査
2	鶴ヶ岡遺跡第4地点	大井鶴ヶ岡3丁目18-1,23,3,26-6	175	1742	店舗	2005.5.12	工事監理、調査
3	亀居遺跡第58地点	亀久保2丁目975-19・24	8	79	個人住宅	2005.4.18	試掘調査
4	亀居遺跡第59地点	亀久保2-10-5	258	1,073	共同住宅	2005.8.3~31 (2005.9.1~16)	試掘調査、 本調査
5	亀居遺跡第60地点	亀久保2-17-7	52	293	個人住宅	2005.10.26~27	試掘調査
6	鶴ヶ舞遺跡第8地点	鶴ヶ舞1-69-46~51,61~66	236	1,087	分譲住宅	2005.7.11~8.11 (2005.8.24)	試掘調査、 本調査
7	鶴ヶ舞遺跡第9地点	鶴ヶ舞1-16-5	23	104	共同住宅	2005.11.1	試掘調査
8	江川南遺跡第20地点	東久保1-183-5	237	951	宅地造成	2005.8.1~12 (2005.8.18~9.10)	試掘調査、 本調査
9	江川東遺跡第10地点	東久保1-174-1・36	267	881	分譲住宅	2005.10.13~24	試掘調査
10	東久保遺跡第63地点	ふじみ野2-5-10・12	23	105	個人住宅	2006.2.1	試掘調査
11	東中学校西遺跡第23地点	ふじみ野4-1-6の一部	288	926	店舗	2005.5.24~30	試掘調査
12	東中学校西遺跡第24地点	ふじみ野3-9-5	194	1,425	店舗	2005.6.20~7.7 (2005.7.11~13)	試掘調査、 本調査
13	東中学校西遺跡第25地点	ふじみ野1-1-9・10	151	604	分譲住宅	2005.6.28~7.2	試掘調査
14	東中学校西遺跡第26地点	ふじみ野3-10-8~11	147	1,060	音楽教室	2006.1.5~10	試掘調査
15	東中学校西遺跡第27地点	ふじみ野3-10-3の一部,-4	14	120	個人住宅	2006.1.11	試掘調査
16	西ノ原遺跡第51地点	うれし野2-1-IX	600	1189	店舗	1991.2.4~12 (2005.4.11~4.25)	本調査
17	西ノ原遺跡第132地点	苗間1-15-17	100	272	店舗併用 共同住宅	2005.7.28~8.2 (2005.8.3~11)	試掘調査、 本調査
18	西ノ原遺跡第133地点	旭1-8-8	48	176	個人住宅	2005.10.11~12	試掘調査
19	西ノ原遺跡第134地点	旭1-13-8	43	348	店舗	2005.10.6~11	試掘調査
20	西ノ原遺跡第135地点	うれし野1-226-1	1,147	3,341	店舗併用 集合住宅	2006.3.14~4.28 (2006.5)	試掘調査
21	中沢前遺跡第26地点	苗間1-11-13	54	170	分譲住宅	2005.11.3~12.1	試掘調査
22	神明後遺跡第26地点	大井苗間字神明後301, 303-3~5,304-1,303-7	62	689	分譲住宅	2005.6.1~8 (2005.6.15~30)	試掘調査、 本調査
23	神明後遺跡第27地点	苗間248-2,249-1	62	385	共同住宅	2005.7.20~25 (2005.7.27・29)	試掘調査、 本調査
24	苗間東久保遺跡第24地点	苗間東久保637-1,637-28	515	561	分譲住宅	2006.3.7~4.14 (2006.4.10~28)	試掘調査、 本調査
25	浄禅寺跡遺跡第27地点	苗間神明後342-2の一部	64	117	道路築造	2006.1.11~12	試掘調査
26	浄禅寺跡遺跡第27地点	苗間神明後354-2	224	696	分譲住宅	2005.12.1~26、 2006.1.13~22 (2006.1.23~2.22)	試掘調査、 本調査
27	大井氏館跡遺跡第19地点	大井1-6-13	4	1,500	個人住宅	2005.6.7~8	試掘調査
28	大井氏館跡遺跡第20地点	大井1-7-7	279	773	共同住宅	2006.3.2~14	試掘調査
29	本村遺跡第113地点	市沢2-2-3	27	162	個人住宅	2005.5.9~10	試掘調査
30	本村遺跡第114地点	市沢3-2-1・12	129	887	分譲住宅	2005.10.21~28	試掘調査
31	本村遺跡第115地点	市沢2-10-6	170	573	分譲住宅	2005.11.21~ 2006.1.31 (2005.12.19~ 2006.2.2)	試掘調査、 本調査
32	本村遺跡第116地点	市沢2-10-4の一部	9	168	個人住宅	2006.1.17	試掘調査
33	本村遺跡第117地点	大井2-11-4・6	1,487	1,582	店舗	2006.3.22~4.14	試掘調査
34	西台遺跡第6地点	西台891-5	68	283	分譲住宅	2005.6.24~28	試掘調査
35	東台遺跡第44地点	東台664-15	109	200	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
36	東台遺跡第44地点	東台664-12		200	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
37	東台遺跡第44地点	東台664-7,9,1		200	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
38	東台遺跡第44地点	東台664-8,10		233	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
39	東台遺跡第44地点	東台664-6		200	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
40	東台遺跡第44地点	東台664-14		225	個人住宅	2005.12.8~28	試掘調査
合計				7,299	25,740		

第18章 東台遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

東台遺跡は東武東上線ふじみの駅の南約1km、砂川堀右岸の台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。標高は24~26mで砂川堀との比高差は約5mで急崖をなし、左岸が緩やかな傾斜を成すのとは対照的である。

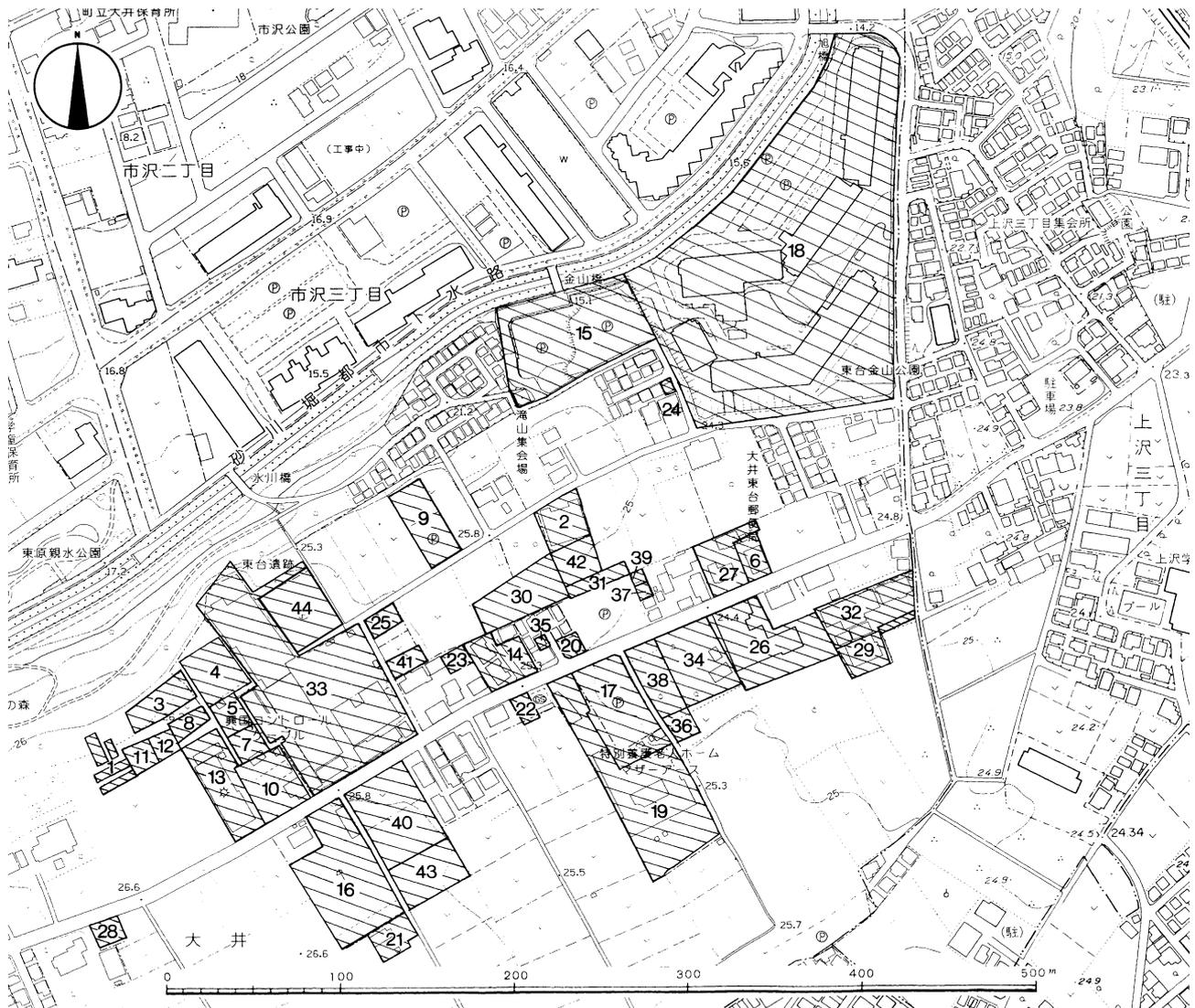
遺跡内には砂川堀に向かって小さな埋没谷が数本確認されている。遺跡の範囲は東西700m、南北250m、遺跡面積約170,000㎡、市内で最大規模の遺跡であり、約17%の30,000㎡を調査している。

旧石器時代の調査では、第18地点の調査で埋没谷に沿った崖沿いにⅥ・Ⅶ層~Ⅳ層下部のナイフ型石器を伴う礫群等が分布する。

縄文時代の調査では早期1軒、後期6軒、中期141軒、不明9軒の住居跡等多数の遺構と遺物が確認されている(2006年12月現在)。特に中期の住居跡は双環状に配置しており武蔵野台地縁辺部における拠点集落の一つである。

奈良・平安時代には遺跡の北東部の第15・18地点で八世紀後半の製鉄炉や炭焼き窯など、県内でも有数の規模と古さを誇る製鉄関連遺跡を検出している。

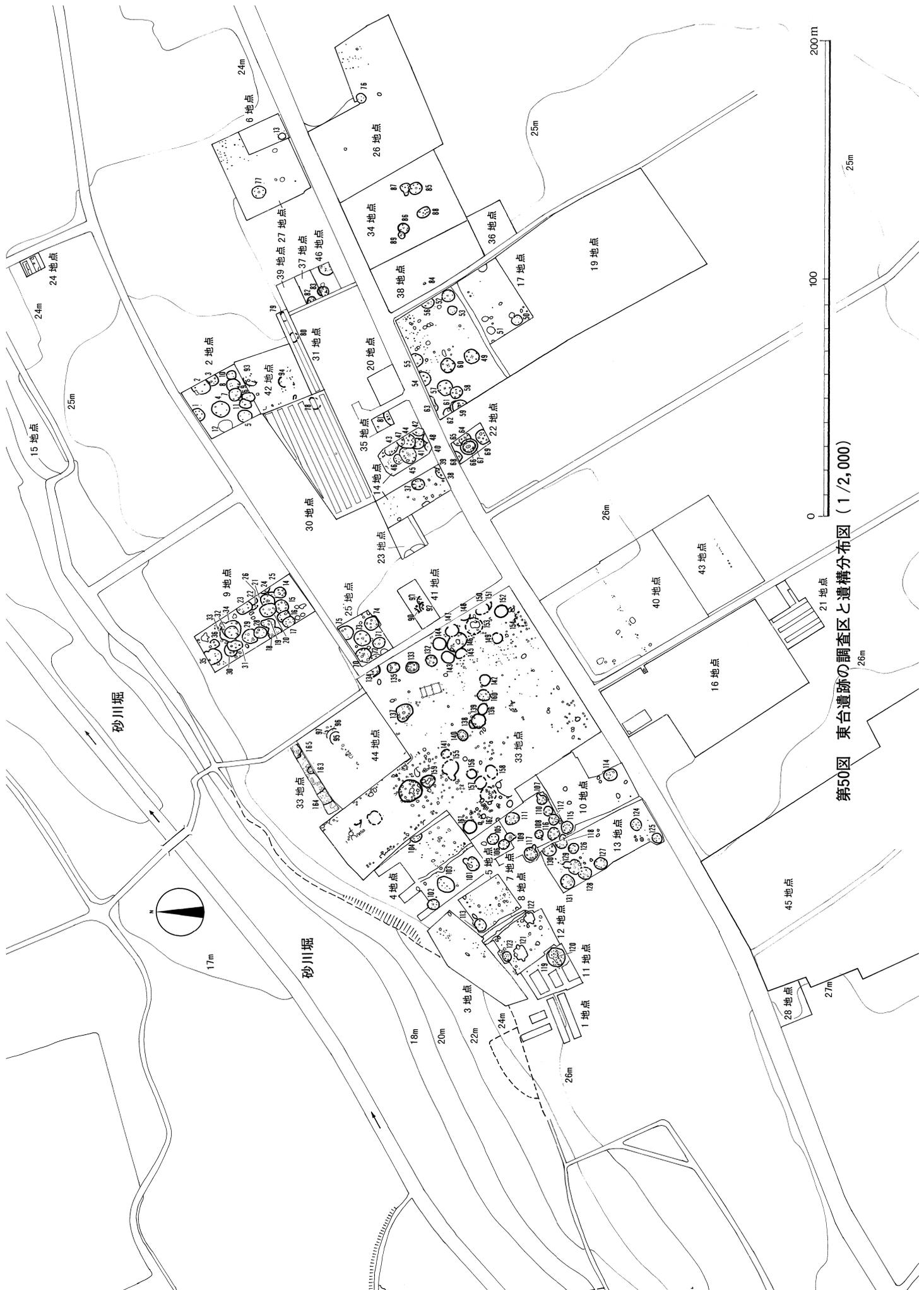
周辺の遺跡は、砂川堀右岸の西約50mに大井戸上遺跡、西約300mに旧石器時代の西台遺跡が位置する。また砂川堀を挟んだ左岸に旧石器時代~近世の本村遺跡が位置する。今後旧石器時代では西台遺跡・本村遺跡との関係が、奈良・平安時代から中世にかけては本村遺跡との関係が注目される。



第49図 東台遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第20表 東台遺跡調査一覧表

地点	調査年	面積(㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	1981		町史編纂事業	遺構無し、縄文中期土器	
2	1981、1882	667	宅地造成	縄文中期住居12、旧石器時代石器	東部遺跡群Ⅲ
3	1982	666	宅地造成	炉穴7、土坑2、柱穴群	東部遺跡群Ⅳ
4	1982	587	農地転用	縄文中期住居3、後期住居1、旧石器ユニット、集石4、土坑14、溝	東部遺跡群Ⅳ
5	1983	195	町史編纂事業	縄文中期住居2、土坑1	東台遺跡
6	1984		宅地造成	縄文中期住居1	
7	1984		共同住宅	縄文中期住居4、後期住居1	
8	1984	345	町史編纂事業	縄文中期住居1、炉穴2、土坑14	東台遺跡Ⅱ
9	1984、1985	1,000	駐車場造成	縄文中期住居22、後期住居1、炉穴、ピット群、旧石器礫群	大井町史資料Ⅰ
10	1985	896	住宅建設	縄文中期住居5、土坑5	東部遺跡群Ⅵ
11	1986	660	宅地造成	縄文中期住居2、集石土坑3、土坑1、ピット	東部遺跡群Ⅵ
12	1987	330	転地返し	縄文早期住居1、土坑18、平安時代住居2、溝1	東部遺跡群Ⅶ
13	1988	971	倉庫建設	縄文中期住居9、集石1、土坑9、ピット20	東部遺跡群Ⅷ
14	1988	735	住宅建設	縄文中期住居12、屋外埋甕1、集石土坑1、土坑8、ピット38	東部遺跡群Ⅸ
15	1989、1990	700	住宅建設	落とし穴1、木炭窯1、粘土採掘坑2、奈良・平安土器	東部遺跡群Ⅹ
16	1990	3,048	資材置場設置	縄文中期住居1、土坑1	東部遺跡群Ⅺ
17	1990	1,470	診療所建設	縄文中期住居8、土坑30、ピット94、柵列	東部遺跡群Ⅺ
18	1991～1994	20,000	共同住宅	旧石器礫群、石器集中17、落とし穴1、竪形製鉄炉7、木炭窯9、採掘坑4、土坑9、溝、柵列、道路跡、平安土器	東台製鉄遺跡
19	1992	4,489	特養新設	縄文中期住居8	町内遺跡群Ⅰ
20	1992	5	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅲ
21	1992	299	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅲ
22	1994	146	店舗建設	縄文中期住居6、土坑1	調査会報告13集
23	1995	285	個人住宅	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅳ
24	1995	58	個人住宅	縄文時代集石、土坑	町内遺跡群Ⅳ
25	1995	296	個人住宅	縄文中期住居5、後期住居1、袋状土坑1、土坑10、ピット6	町内遺跡群Ⅳ
26	1996、1997	2,248	共同住宅	縄文中期住居1、土坑3、落とし穴1、ピット24	調査会報告13集
27	1997	965	個人住宅	縄文中期住居1、炉穴1、土坑1、落とし穴1、ピット44	町内遺跡群Ⅵ
28	1997	231	個人住宅	遺構無し、縄文土器片	町内遺跡群Ⅵ
29	1998	500	個人住宅	縄文早期炉穴9、ピット2	町内遺跡群Ⅶ
30	1998	1,330	駐車場	縄文中期住居1、屋外炉、ピット	町内遺跡群Ⅷ
31	1999	186	道路築造	縄文中期住居2	町内遺跡群Ⅸ
32	2000	92	製茶工場	ピット3	町内遺跡群Ⅹ
33	2000、2001	7,076	分譲住宅	石器群4、礫群4、縄文中期住居30、後期住居4、掘立柱建物跡1、炉穴14、集石土坑4、他	町内遺跡群Ⅹ
34	2002	1,414	共同住宅	縄文中期住居5、土坑11、ピット16	町内遺跡群Ⅺ
35	2001	48	個人住宅	縄文中期住居1	町内遺跡群Ⅺ
36	2001	272	倉庫建設	ピット5、土器片	町内遺跡群Ⅺ
37	2001	100	個人住宅	縄文中期住居2、ピット1	町内遺跡群Ⅺ
38	2002	787	駐車場	縄文中期住居1、竪穴状遺構1、集石土坑2、土坑2、ピット2	町内遺跡群Ⅺ
39	2002	100	個人住宅	ピット3、縄文土器片、石屑	町内遺跡群Ⅻ
40	2003	1,875	幼稚園	土坑6、ピット10、柵列	町内遺跡群Ⅻ
41	2004	182	個人住宅	縄文中期住居3、集石1、土坑1、屋外ピット1	町内遺跡群Ⅻ
42	2004	515	教会建築	縄文中期住居2、落とし穴1、土坑3、ピット20	町内遺跡群Ⅻ
43	2005	964	駐車場	ピット4	町内遺跡群Ⅻ
44	2005	200	個人住宅	縄文中期住居1、後期住居2、土坑5、ピット9	市内遺跡群2
45	2006	17,391	小学校	旧石器石器集中、縄文中期住居、土坑等	刊行予定
46	2006	100	建売住宅	縄文中期住居2、土坑1	刊行予定



第50図 東台遺跡の調査区と遺構分布図 (1/2,000)

II 東台遺跡第44地点

(1) 調査の概要

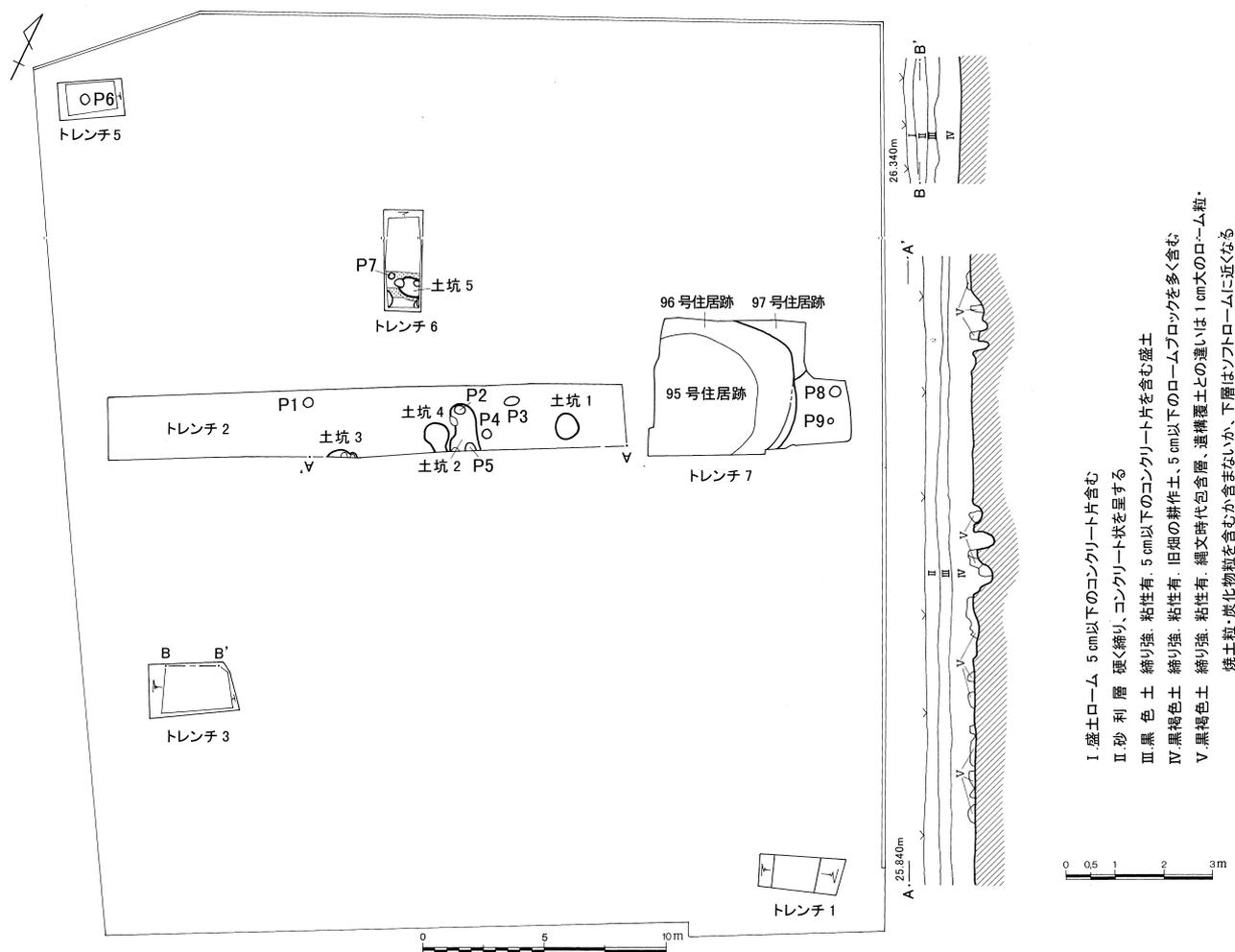
調査は6軒の個人住宅建設に伴うもので、各原因者より2005年12月8日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。各建物の基礎の深さは約50cmであるが、浄化槽設置部分については現地表面より約2mの深さである。申請地は遺跡の中央に位置し、隣地では縄文時代の住居跡を検出しているため、申請者と協議の結果、遺構・遺物と包含層・地山ローム層までの深さを確認する、試掘調査を実施した。試掘調査は2005年12月8日から28日まで行った。当初は調査区全体にトレンチを設定する予定であったが、現地は以前に駐車場として利用されていたため、表土層が硬く締まっていた、周辺の住民より掘削の際に振動による苦情が寄せられた。そのため、申請地の北側半分の道路築造予定地と、浄化槽設置予定地にトレンチを設定した。

重機でトレンチの表土を除去し、人力による表面精査を行った結果、トレンチ7で住居跡とみられるプランを確認した。また、トレンチ2・5・6で縄文時代とみられる土坑とピットを確認した。申請者と協議を行い、遺構確認面までの深さは現地表面から約80~100cmで建物の基礎による影響が及ばないことから、工事立会いの措置をとった。ただし、トレンチ7の住居跡にかかる浄化槽予定地については、遺構に影響のない東側に移動することとした。また、調査区南側3軒の住宅の浄化槽設置部分については、工事立会いとした。旧石器時代の確認調査は行っていない。

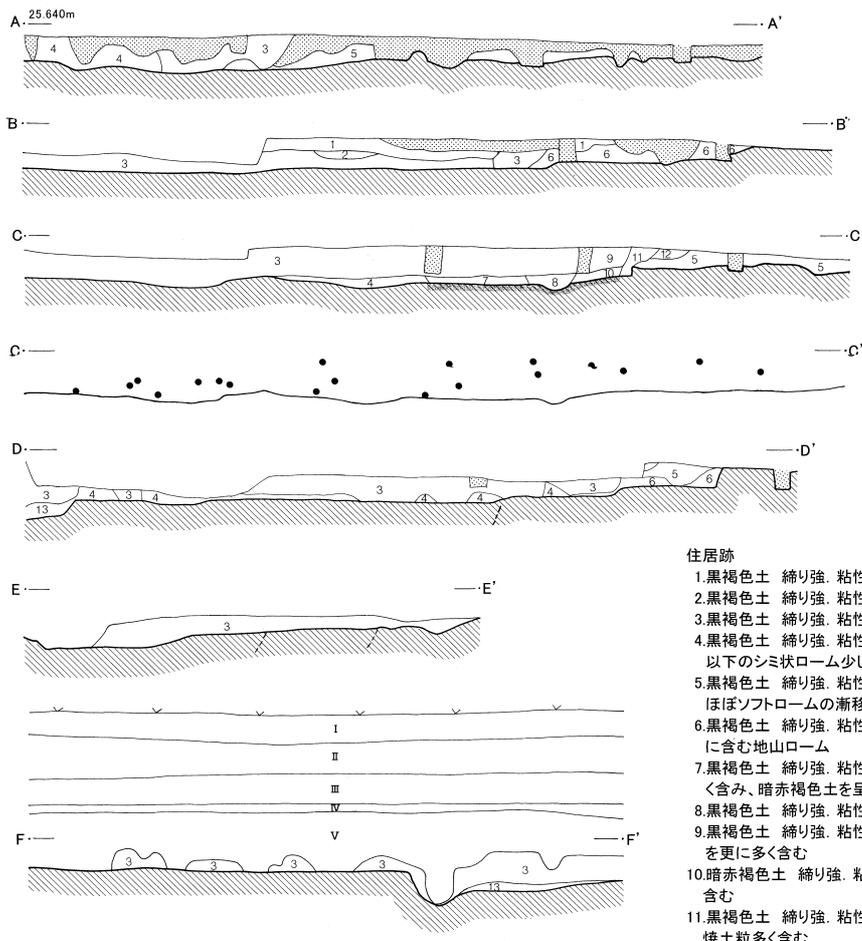
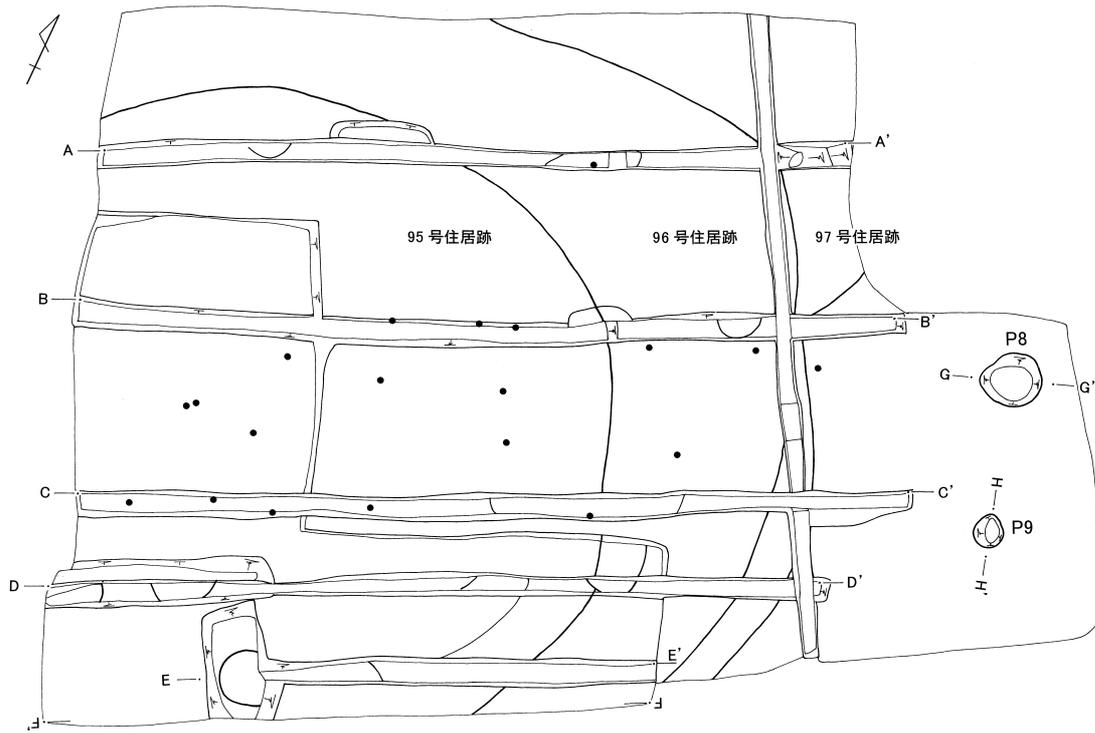
写真撮影・遺構測量等記録保存を行ったうえ埋戻しして調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

トレンチ7で複数の住居跡のプランを確認した。農作物の耕作痕部分を掘り下げて住居跡の深さを確認したが、住居跡の全貌は不明である。



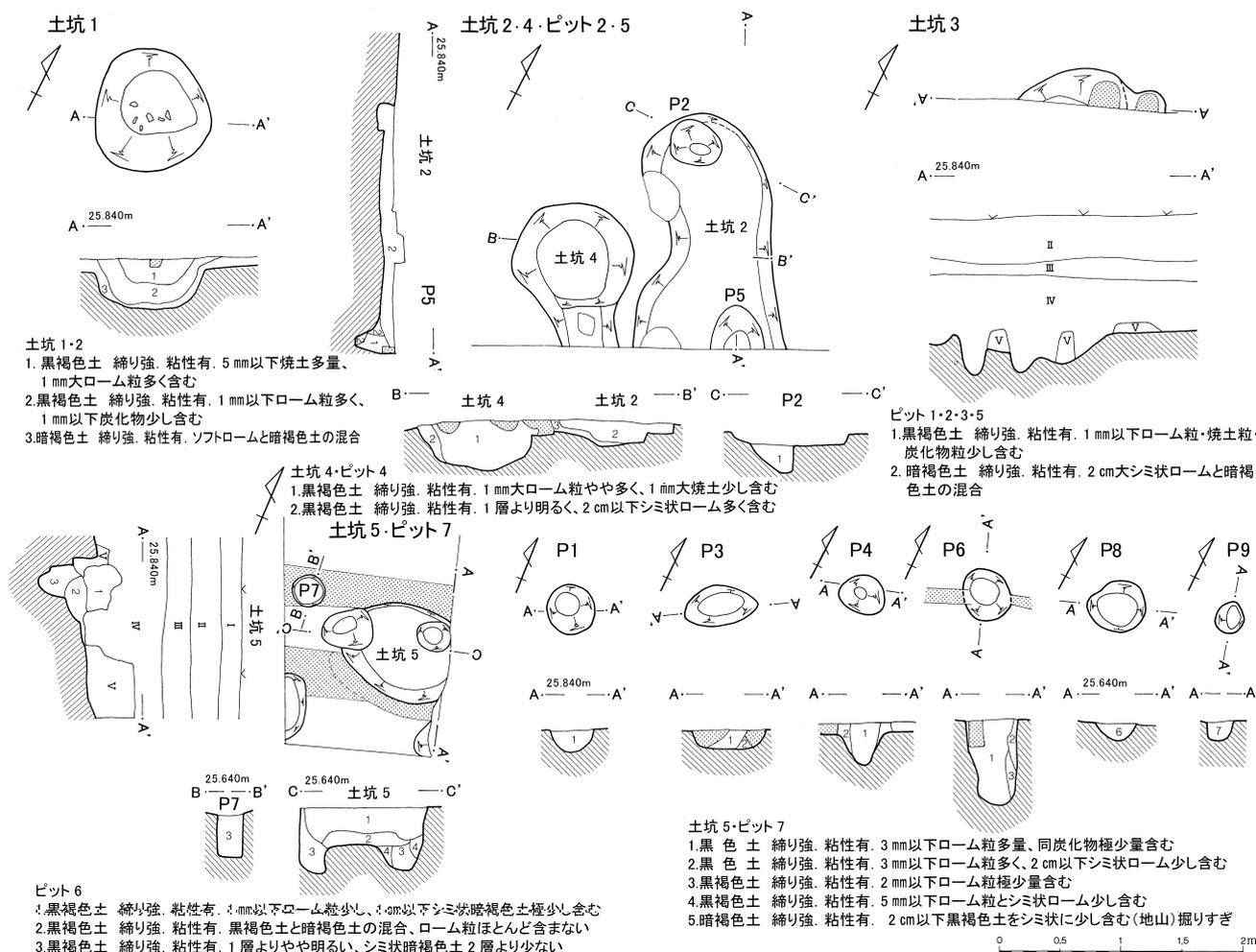
第51図 東台遺跡第44地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)



- 住居跡
1. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1mm以下のローム・焼土粒多く含む
 2. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1mm以下のローム・焼土粒少量含む
 3. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1mm以下のローム・焼土粒多量に含む
 4. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1mm以下のローム・焼土粒少量、2cm以下のシミ状ローム少し含む、貼床
 5. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 2cm以下のシミ状ロームを少量含む、ほぼソフトロームの漸移層に似る
 6. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 5層より明るく、黒褐色土と暗褐色土を斑状に含む地山ローム
 7. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 3mm以下の焼土粒、全体にシミ状焼土を多く含む、暗赤褐色土を呈する
 8. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 7層より暗く、シミ状焼土少ない
 9. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 1~3層に類似するが、1mm以下の焼土粒を更に多く含む
 10. 暗赤褐色土 締り強. 粘性有. 焼土層ベースに2mm以下の焼土粒多く含む
 11. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 5層に類似するが、やや5層より1mm大の焼土粒多く含む
 12. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 5層に類似するが、11層より焼土粒少ない
 13. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 3層より2mm以下のローム粒を多く含む
- ピット 8・9
6. 黒褐色土 締り強. 粘性有. 2cm以下シミ状ローム多く、1mm大ローム粒・炭化物少し含む
 7. 暗褐色土 締り強. 粘性有. ソフトロームに似、ローム粒含まない



第52図 東台遺跡第95・96・97号住居跡遺物出土状況 (1/60)



第53図 東台遺跡第44地点土坑・ピット (1/60)

トレンチ 7で確認した3軒の住居跡は、東台遺跡の縄文集落内では双環状部分の中央部北寄りにあたる。

① 95号住居

トレンチ 7内の最も西側に位置し、最も深い住居跡である。平面形は円形または隅丸楕円形とみられる。覆土層には遺物が多数確認でき、トレンチの南西隅で柱穴痕も確認した。

② 96号住居跡

95号住居跡の北から東側に円形状に広がる。95号住居跡より床面までの掘り込みは浅く、遺物も少ない。詳細は不明である。

③ 97号住居跡

95・96号住居跡の北側に広がる。最も掘り込みが浅く、平面形も不明である。95号住居跡より床面までの掘り込みは浅く、遺物も少ない。詳細は不明である。

④ 土坑とピット

土坑は5基、ピットは10基検出した。覆土層の観察から縄文時代とみられる。

第21表 東台遺跡第44地点土坑一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	102×95	64×52	36.2	2トレ
2	不整形	195×110	190×102	14.7	2トレ
3	不明	93×—	40×—	21.3	2トレ
4	不整形	(120)×100	65×58	36.4	2トレ
5	楕円形	78×—	65×—	36.2	6トレ

第22表 東台遺跡第44地点ピット一覧表 (単位cm)

No	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	円形	42~40	21~19	19.4	2トレ
2	楕円形	42~35	18~8	28.8	2トレ
3	楕円形	62~32	39~18	16.9	2トレ
4	円形	38~31	10~8	30.4	2トレ
5	不明	42~ (36)	20~ (15)	27.6	2トレ
6	円形	45~38	25~21	67.3	5トレ
7	円形	36~25	24~23	35.6	6トレ
8	楕円形	48~42	33~27	13.8	7トレ
9	楕円形	27~24	19~11	15.4	7トレ

⑤95・96・97号住居跡覆土上層出土遺物（第54・55図1～116）

1は隆帯ぞいに複列の角押文をもち胎土に金雲母を含む。2は太い隆帯側面に交互刺突の刻目を入れる。3は太い隆帯上にC字状の押引文を入れる。4は地文縄文の上に沈線を入れ、押引手法の刺突文を配する。5は隆帯と沈線の区画内に撚糸文を施す、6は地文撚糸文で蛇行懸垂文をもつ胴部片で、側面に調整があり土錘または土製円形の可能性もある。7は地文撚糸文で口縁下に3本の沈線をめぐらす。8は地文撚糸文の深鉢底部である。9は沈線のみ口縁部片である。10～12は地文縄文の深鉢で頸部に蛇行する隆帯をもつ。13・14は地文縄文に隆帯の懸垂文をもつ。16・23・24は地文縄文、18は2列の列点文をもつ口縁部で、21は地文縄文に沈線の懸垂文をもつ。19・20・22は幅広い磨消懸垂文をもつ類である。25と26は同一個体で、無文口縁部の沈線に地文縄文を施すのみである。27は地文縄文と弧状の広い磨消をもち、28～34は地文条線の深鉢片である。

1は阿玉台Ⅱ式、2～4は勝坂Ⅱ式、5と6は加曽利EⅠ式。7～34は加曽利EⅡ～EⅢ式で、8～11はこの併行期の曾利系土器である。

35・36は同一個体の口縁部で沈線間に列点文を、37は沈線でZ状文を施す。38～50は、地文の細縄文をJ字状に磨消して、磨消部に刺突を加える類で、称名寺2式である。51は沈線のみでJ字文を作る口縁部。52は幅広い磨消しをもつ。53～62は薄手で、細刺突文列や渦巻文をもち57～60の内面は磨き調整が著しく、称名寺式～堀ノ内式。

63は斜位の太い刻目を入れた隆帯で区画文をつくり、中に三角押文列を入れる勝坂Ⅱ式である。64は隆帯で区画をつくる加曽利EⅠ式か。65は無文口縁筒形深鉢の口縁、66は地文縄文で口縁下に2本の沈線をめぐらす。

67～71は縄文を地文とする類で、沈線か微隆帯をもつ。72・73は沈線文と磨消部分の破片である。74～76は細縄文を地文に沈線間磨消を伴う類で、厚さ4mm以下と薄手である。77～81は沈線を基調とする。82と83は隆帯上を刺突する類で、82は8字状隆帯である。84は口縁下に刻目微隆帯をもち、85の波状口縁深鉢や86

と同巧である。86は地文縄文に円形刺突・沈線文を施す。87・88・90～94は沈線文を施す。95～97は細縄文を地文とし、横長帯状文様を沈線につくる。96の横位沈線に段差をつくる。98～102は無文口縁、103～106は粗製土器の無文部である。107～109は底部片である。110は浅鉢の口縁波頭部。111は耳栓の半欠品、112は胴無文部利用の土錘であろうか。胎土に金雲母を多く含むことから阿玉台期のものである。113は土製円盤とみられる。114・115は細粒砂岩製の打製石斧で欠損する。重さは114が34.32g、115が137.53gである。116は黒曜石の石鏃で先端部と脚部の一部を欠損する。重さ1.55gである。

⑥土坑出土土器（第56図1～27）

1～6は土坑1出土で、1の小波頭頂には円形刺突文があり、弧状沈線間を円形刺突文で埋める。2は沈線でJ字状文をつくり、内部刺突を加える。3と4は同類で称名寺式末葉のもの。5は条線のみ、6は薄手で縄文を地文とし弧状沈線を加える後期初頭とみられる。

7～14は土坑2出土で、7は無文胴部片。8は隆帯で円形区画を作り、連続爪形文を加える。9は波状沈線を入れ胎土に雲母をもつ。10は区画文をもつ口縁文様帯の破片で地文は縄文。11はLR縄文、12は地文縄文と幅広い磨消し、13・14は沈線文に磨消しを施す。

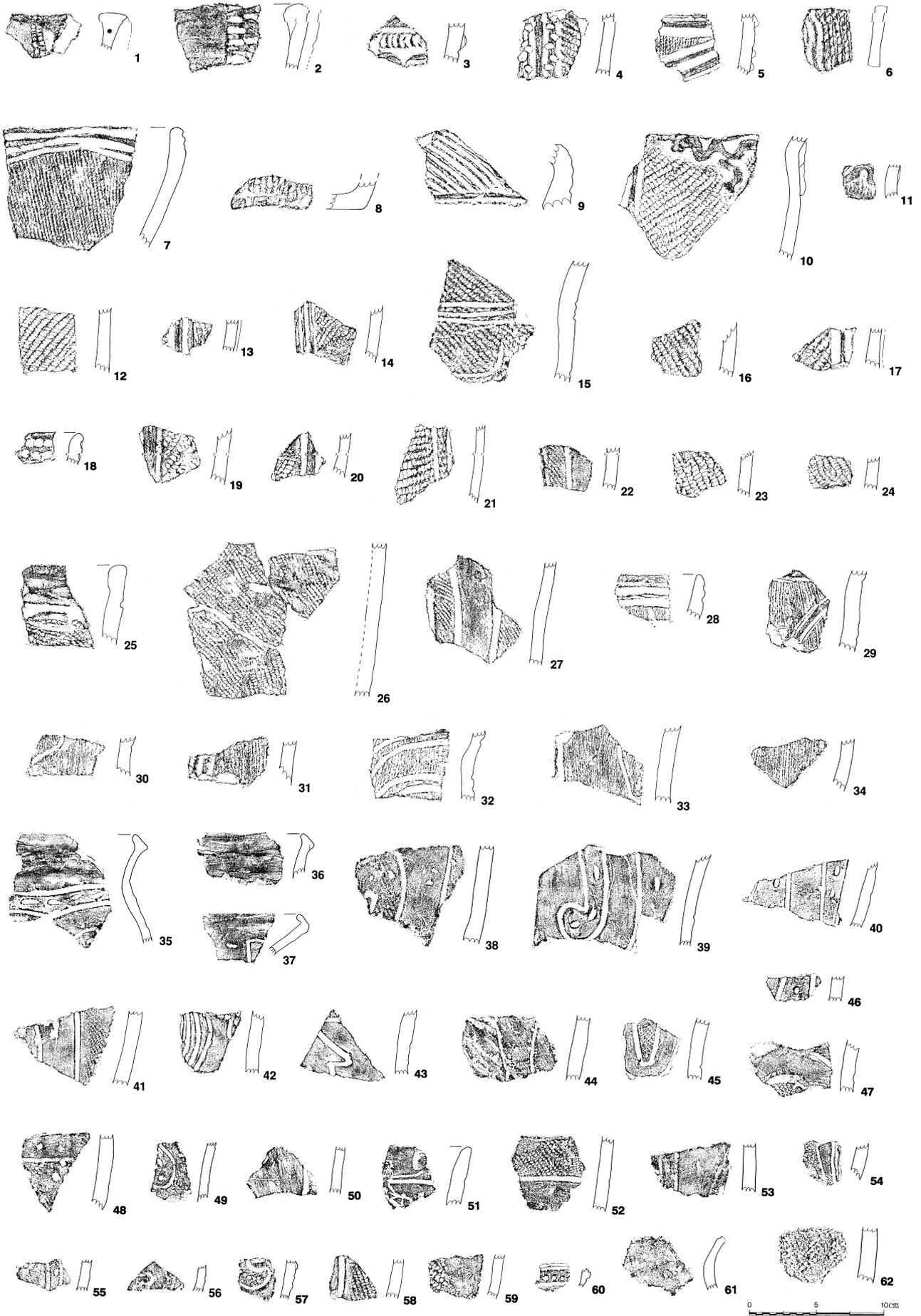
15～17は土坑3出土で、15は地文撚糸文に沈線文を施す。16は胴最下部で、17は細沈線のみ口縁部で堀之内Ⅰ式。土坑の時期は後期か。

18～20は土坑4出土で、18と19は地文の縄文を弧状に磨消す。20は軽石製の山形胸飾りで、両面穿孔の径6mmの円孔がある。完形で重さ9.10gである。

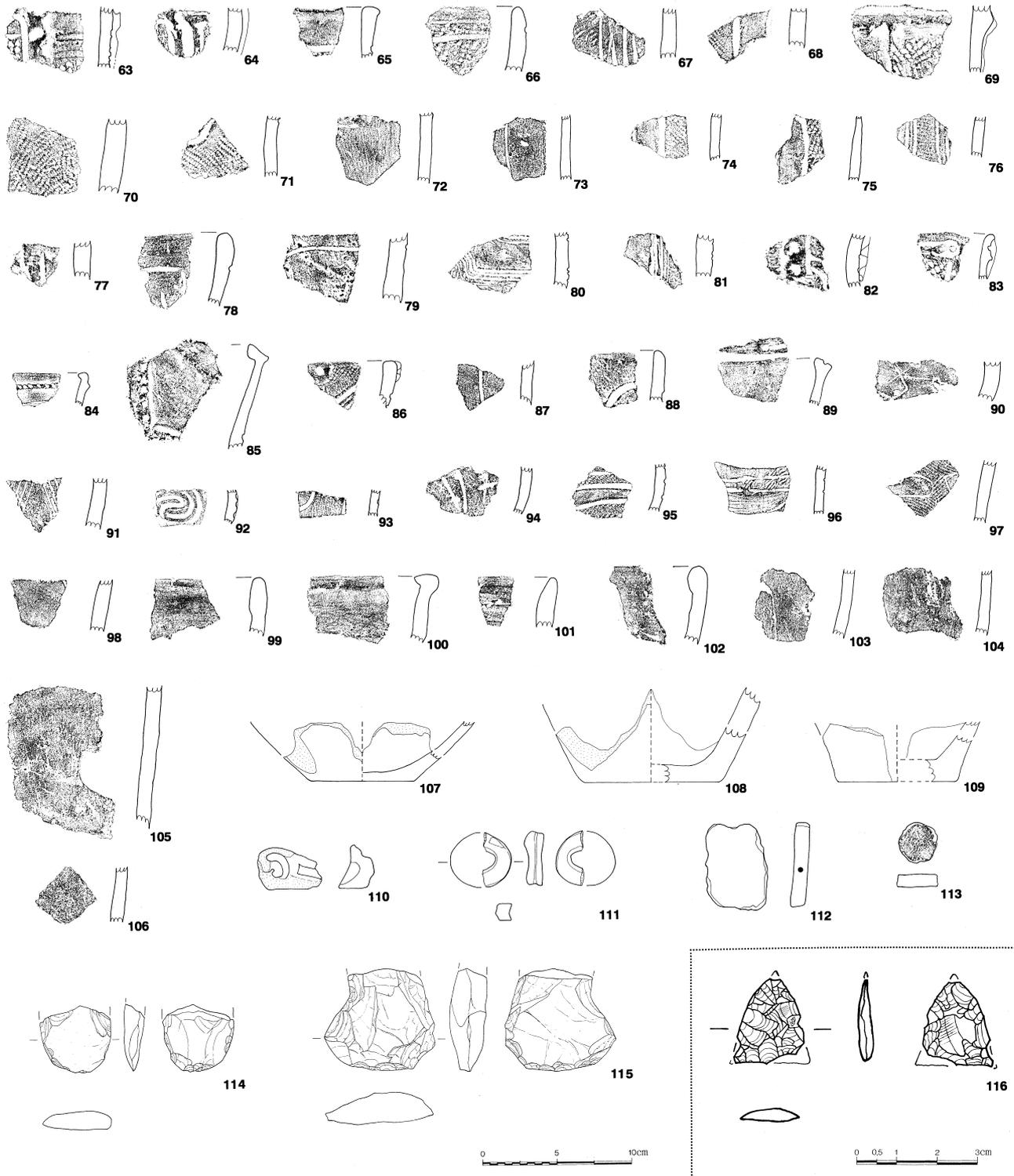
21～27は土坑5出土である。21は筒形深鉢の口縁部で、区画内に円形刺突と押引文がある。22の胎土には金雲母・石英を多く含み地文縄文を、縄で押圧した隆帯が囲む。23は縄文、24は磨消し、25は無文、26は沈線文の胴部片である。21や22のような中期前半から、24の堀之内Ⅰ式まであり、土坑の時期は不明。

⑦遺構外出土遺物（第56図28～58）

28と29は表裏条痕文の早期後半。30は口縁下に交互刺突と波状沈線文をもつ。31は三角押文列をもち、32は撚糸文、33は地文縄文で広い磨消しがあり、34は地文縄文である。35～38は地文縄文で沈線が加わる。



第54図 東台遺跡第44地点95~97号住居跡出土遺物① (1/4)



第55図 東台遺跡第44地点95～97号住居跡出土遺物② (1/4・2/3)

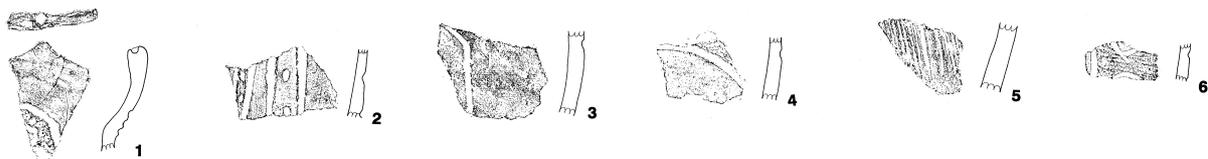
39と40は条線のみの中片。41は地文縄文で太い沈線をもつ。42は口縁下に隆帯がある。43と44は無文浅鉢の口縁部で、44は小形精製土器片。45と46は地文縄文で沈線間を磨消す。47は微隆帯をもつ。48は屈曲する沈線の区画内に円形刺突を施す。49は浅鉢の口縁部の波頂部である。50は薄い本体に把手をもち、51は磨かれた波状口縁の突起部。52は小型浅鉢の口縁部で無

文、53は細沈線のみの中片、54は微隆帯上に刺突を入れる。55と56は弧状細沈線をいれ広く磨消す。

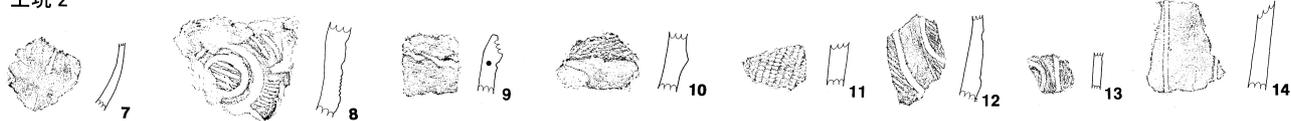
早期・中期の遺物が散見されるが、42～56の様に後期の遺物が多く、堀之内式のものが目立つ。

57は砂岩製の打製石斧で基部を欠損し、重さ71.44gである。58は黒曜石製石鏃の脚部片で重さ0.51gである。

土坑 1



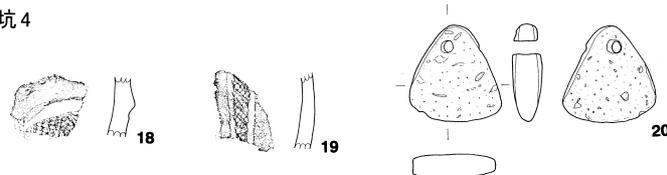
土坑 2



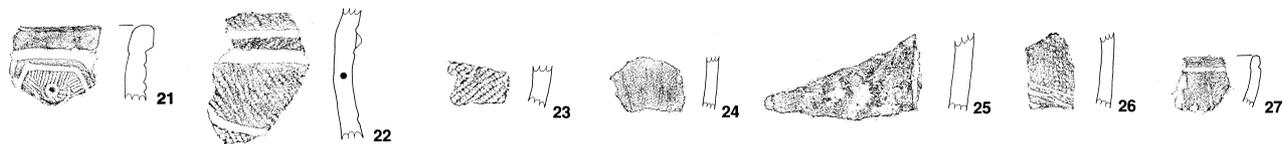
土坑 3



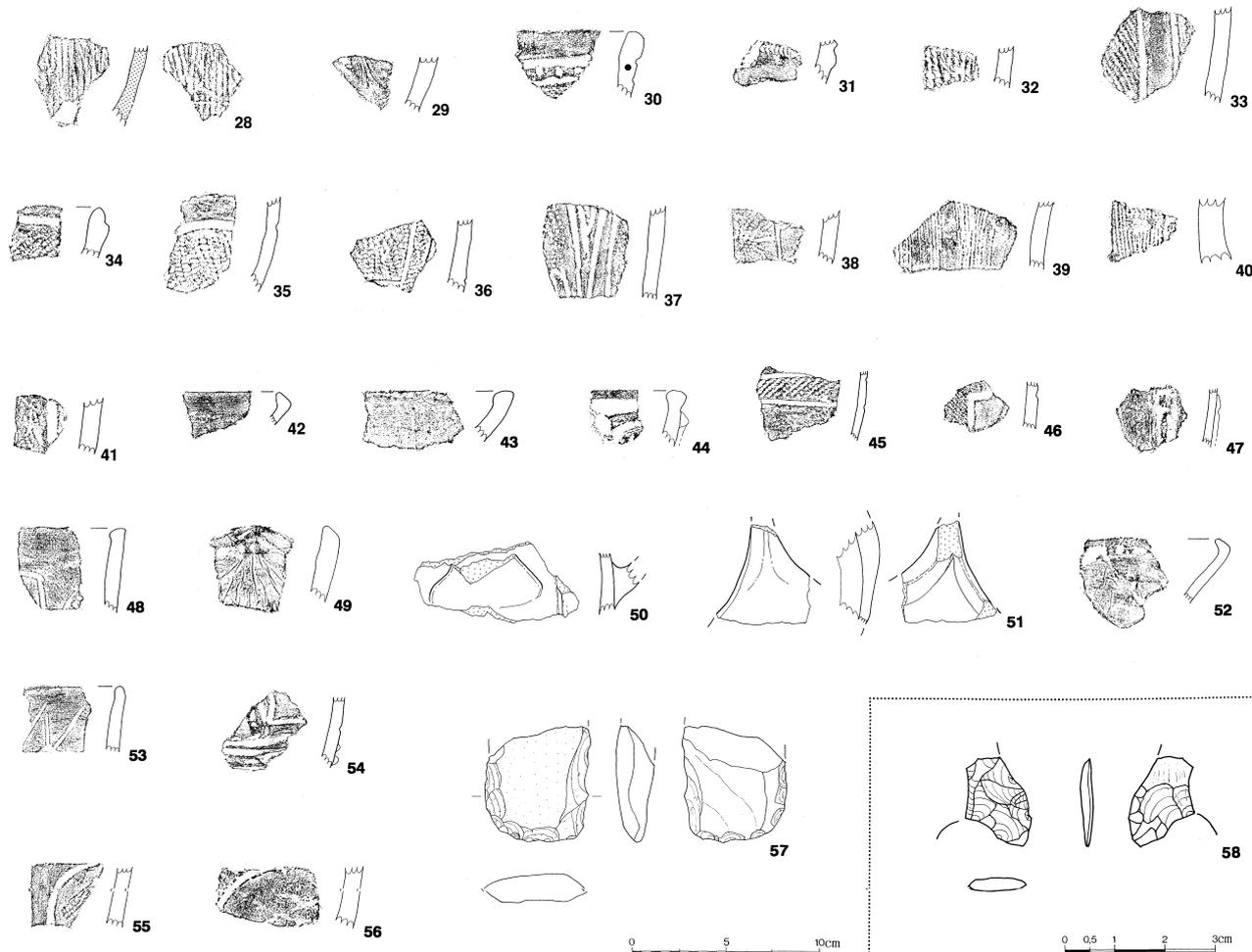
土坑 4



土坑 5



遺構外



第56図 東台遺跡第44地点土坑・遺構外出土遺物 (1/4・2/3)



西台遺跡第6地点トレンチ1



西台遺跡第6地点調査区近景



西台遺跡第6地点トレンチ1



東台遺跡第44地点トレンチ2



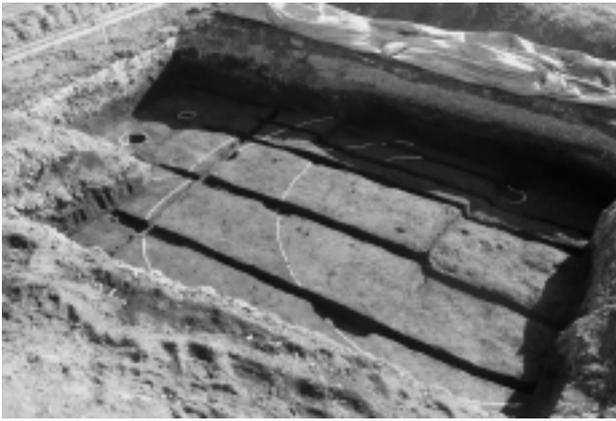
東台遺跡第44地点トレンチ2



東台遺跡第44地点トレンチ5



東台遺跡第44地点トレンチ6



東台遺跡第44地点95・96・97号住居跡



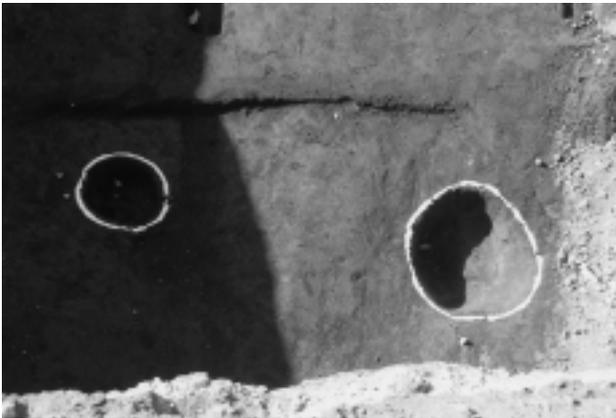
東台遺跡第44地点95・96・97号住居跡



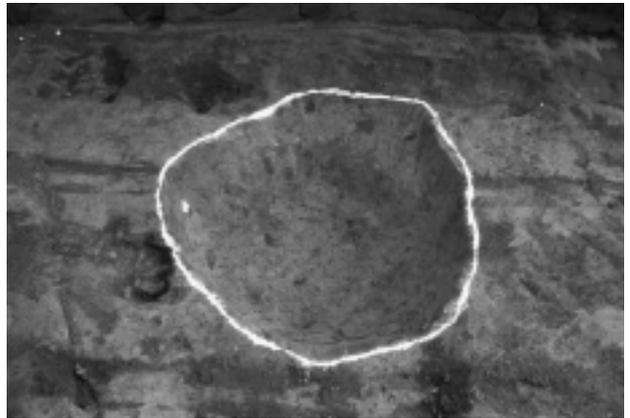
東台遺跡第44地点95・96・97号住居跡



東台遺跡第44地点トレンチ7



東台遺跡第44地点トレンチ7



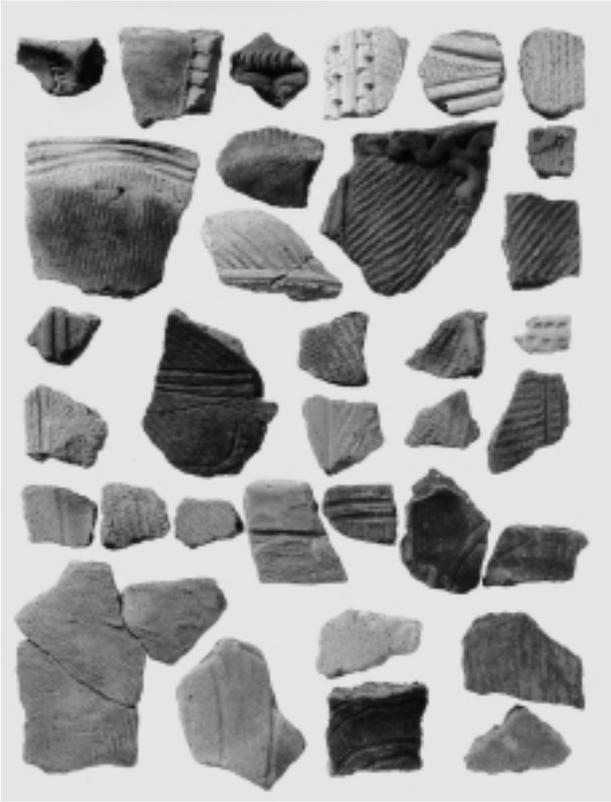
東台遺跡第44地点トレンチ7



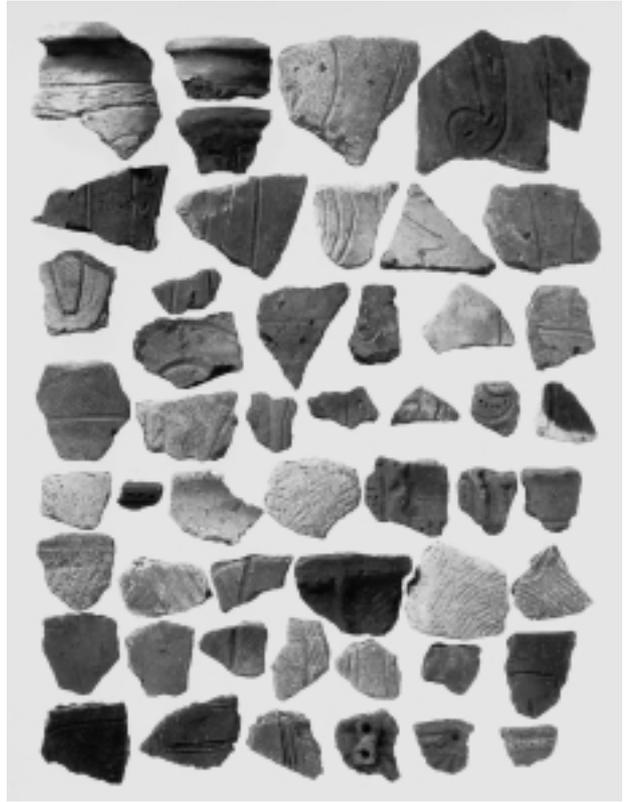
東台遺跡第44地点土坑



東台遺跡第44地点土坑2



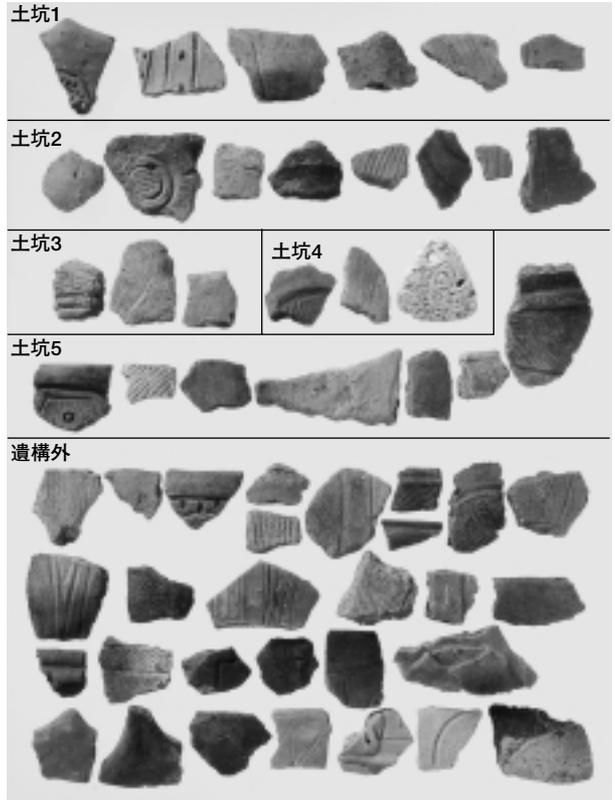
東台遺跡第44地点95～97号住居跡出土遺物No 1～34



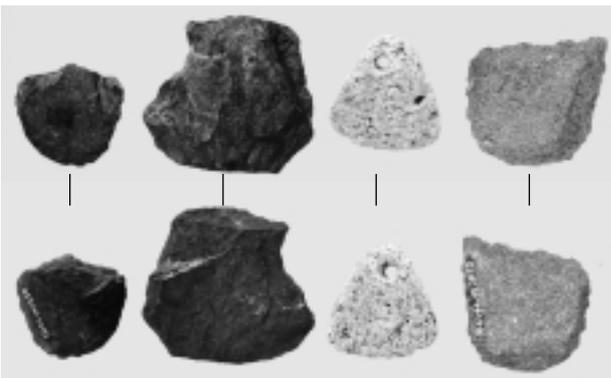
東台遺跡第44地点95～97号住居跡出土遺物No35～84



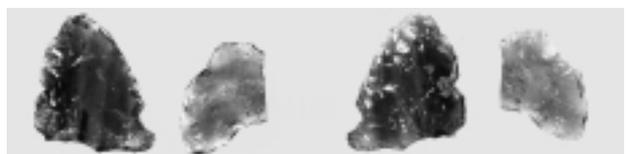
東台遺跡第44地点95～97号住居跡出土遺物No85～113



東台遺跡第44地点土坑・遺構外出土遺物



東台遺跡第44地点出土遺物No114・115・20・57



東台遺跡第44地点95～97号住居跡・土坑・遺構外出土石器No116・58